

会長就任のご挨拶

紫緑会会長 幸野 里寿

(京都大学医療技術短期大学部看護学科 1988年卒業)

卒業生の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。今年度より二年間、会長を拝命いたしました医療短期大学看護学科10期卒業生の幸野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

ここ数年にわたる新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、私たちの生活を取りまく環境は大きく変化いたしました。卒業生が多く所属しているであろう医療機関や教育機関にも影響は及んでおり、政府を中心に感染症予防への対策に迫られる日常が当たり前のこととなりつつあります。更に、昨今のIT技術の発展は目覚ましく、先進国のみならず世界中のあらゆる場所での情報化が進み、それに伴った技術開発も大きな進歩を遂げています。世の中の情勢が変わっていく中で私たちも変化に対応すべく、特に組織においては常に変革が求められています。しかしながら人を取り巻く環境は大きく変わるとしても、人の本質は太古より変わらないものです。経済格差やコロナなどの災害、ひいては政治の影響や戦争などにより人々が分断される状況下でも、ゆるぎなく人々の根底に流れる感情や人とのつながりを求める思いは、それぞれの大小や顕在・潜在に関わらずこれからも変わらずに人を人たるものとなすことでしょう。

紫緑会は医療技術短期大学部からスタートして、医学部保健学科として四年制になってからも、入学時から学生の皆さんに会の門戸を開き入会して頂いております。さらに前身校でありました京都大学医学部附属看護学校と京都大学医学部附属臨床検査技師学校のそれぞれの同窓会を統合した同窓会です。紫緑会だよりの発行をはじめ、各専攻支部における会報の発行や懇親会などの催しなどを通して情報交換の場の一つとなっています。卒業生の皆さんは、普段は仕事や日々の生活でそれぞれに充実した日々を送っておられると思います。そんな毎日のなかで私たちは多くの人に助けられ、時に同窓生のつながりが心の支えになることもあります。島前会長のご挨拶では、職場の感染管理体制についての情報提供や、品薄であったマスクや消毒液の寄付やお弁当の差し入れに感謝された経験を共有していただき、癒やされ、勇気づけられ、人との交流がどれほど大切であるか改めて考えさせられた経験をつづっておられました。形態は変化しても、さらに交流を深めて行くことがこれからの社会を左右していくため、紫緑会はそういった関係を少しでも築いていき、絶やさないようにする援助ができればと仰っております。この方向性を今後も引き継ぎ、二年間の任期を同窓会役員と共に務めて参りたいと思います。今後とも紫緑会の発展のために皆様の温かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。